



9月上旬も引き続き高温が予想されます。本年は、ハダニ類やシンクイムシ類の被害が目立ちます。主要害虫の発生調査を行い、発生が目立つ園は定期散布を前倒するなどの対策を講じてください。また、9月中旬以降は気温が低下し、すす点・すす斑病の果実感染期となります。この定期散布も予防を基本としていますので、秋雨が続く前に確実に実施しましょう！

【りんご】 9月上旬の散布

散布時期：	9月5日～10日（前回散布から15日後）	散布日：	月 日
散布薬剤：	水 100 ^{リットル}	散布量：	ℓ
	展着剤 10ml		
	ストライド顆粒水和剤 66g（3日前、3回）*注意事項①、④参照		
	ダントツ水溶剤 50g（前日、3回）*注意事項②参照		
対象病害虫：	すす点・すす斑病・輪紋病、褐斑病、斑点落葉病、シンクイムシ類、キンモンホソガ ギンモンハモグリガ、カメムシ類、リンゴワタムシ、カイガラムシ類		
散布量：	10アール当り 600 ^{リットル}		

【注意事項】*必ずお読みください。↓

- ① 輪紋病・炭そ病の果実被害が見られる園は、今回の定期散布にアリエティ C 水和剤 800 倍（14 日前、3 回）を加用する。ただし、収穫前規制に注意する。（晩生種主体とする）
- ② シンクイムシ類・ハマキムシ類の発生園は、サムコルフロアブル 10 の 2,500 倍（前日、3 回）を加用する。
- ③ 9 月に入っても、ハダニ類の発生が見られる場合は、下記の表を参照にして殺ダニ剤を加用する。詳しくは営農センター担当までお問い合わせください。（TEL23-3933）
- ④ ストライド顆粒水和剤は高温時に散布すると薬害を生じる恐れがあるので、できるだけ涼しい時間帯に散布する。

～ 殺ダニ剤の選択について ～ 【効用凡例】 ○：効果ある △：効果やや劣る ×：

薬剤名	倍率（倍）	種類に対する効果		ステージに対する効果		
		リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
コロマイト乳剤	1000	○	○	○	○	○
カネマイトフロアブル	1000	○	○	○	○	○
マイトコーネフロアブル	1000	○	○	△	○	○
オマイト水和剤	750	○	○	○	○	○
オサダン水和剤	1000	○	○	△	○	△
サンマイト水和剤	3000	○	×	○	○	△
ピラニカ水和剤	2000	○	×	○	○	○
バロックフロアブル	2000	○	○	○	○	×
スターマイトフロアブル	2000	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	○	○	○	○	○
ダニトロンフロアブル	1000	○	○	△	○	○
コテツフロアブル	2000	×	○	△	○	○

A) ダニサラバとスターマイトは同一薬剤系統であるので、同一年度に 2 剤を使用しないこと（隔年で使用すること）

B) アーデント水和剤、バイスロイド EW、ロディー水和剤等の合成ピレスロイド剤は、殺ダニ効果があるが近年効力が低下しているので、主に夏季のシンクイムシ類対策として散布する。（ただし、抵抗性が出現しやすいため年 2 回の使用とする）

中生種以降の栽培管理については裏面をご覧ください。